

武藏名所考

夏

L290.3

マ

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

武藏名所考卷二



玉河

梶野陳人編



名所抄玉川山城攝津近江武藏陸奥紀伊久松遠  
集之玉川子山久河布子山子歌を武藏之載之類字  
名寄松葉歌林並凡載之

萬葉集之云多麻河泊

延喜式之云武藏國多麻

和名類聚抄之云武藏國多麻郡婆

風土記之云多摩郡或玉

又云多摩川出諸鱗及鷓鴣等亦里人作調布納内蔵寮  
藤塩草云云玉河外花さける河あり是不限名所於  
吾妻澆云云可被懸上多磨河水 河武務野に

神明澆云云延文三年九月十九日新田兵衛佐義興武州  
丹波川船中ニテ自害

諸國物語云云あまの女と知りさう表れ降子細く明  
多夕日さくさく新まきゆく津さく河さぬ玉川のさう  
と細布さくさく近づく葦の用意さや單あつ物と縫う  
類字名所補翼抄云袖中抄さ糸茎子玉川さく注  
是ハ武務國と思玉郷といふ所より流さ出さ玉川を玉川ハ  
いふかり彼川をそ布とけくは之玉川の里ハ外の花も流り

武多野二ノ壺

と云云然れハ顯昭此相換り奇、其之金糸集千載集さ好  
の花よきさ玉川の里ハ糸茎とまつりさくはと流ると  
同所と名きしれさり和名さ武務國と思玉郡ありこれハ是  
も多摩郡より出れ川と名彼郡と名國府ありと俗に  
はた玉川といふ和名も是太婆と流しこれハ昔より俗に  
いふと同しとの事

梅さうふ袖中抄さ武務國と思玉郷といふより流さ  
出さ玉川といふ所ハ流りなり思玉郡名にて  
上野國と接と多摩郡と教郡と名玉川と  
於て關繫とさふの事

紫一本云玉川矢の渡より六々の橋乃を流る川と

室前一説あり、法谷祥雲寺の末寺は西よりその地  
より古き洞の筒と塔出りけり、其の年号まゝの齋一書  
多波川と有と祥雲寺の住持中々古き祥雲寺に納め  
置まじく之を中へくと住持中々古き祥雲寺に納め  
置まじく之を中へくと住持中々古き祥雲寺に納め

楊とふ祥雲寺の末寺といひ、ハ多摩郡多摩村常  
光寺の事あり、洞の筒も今祥雲寺中景徳  
院と蔵と銘よ、敬白僧智賢南閻浮提日本國武  
蔵國多波郡定光寺兵大施主上生成恒少施主藤  
原氏工藤原守道仁安二年歲次丁亥二月廿一日  
庚寅とあり、定と常と國音同、これハ洞の頭

より、楊とたるなり、

本朝俗語志に云、武蔵國多摩郡の玉川ハ大河より流  
の末六郷の邊あり、此川の氷ハ大指の腹厚と云、た丸く  
氷り、河岸の枯草かれ葉ととら、河ひと玉の聯けあり、  
如く只水精の珠敷と乱きと似たり、此川の氷と河ひ、  
かく氷り、此故と玉川の名ありと云、

山岡明阿云、今考らば氷の玉乃如く、あつとよそ、  
後の俗のいひ、出ると之流水の氷、いひ、  
さつためつ、きと、たあ、  
あつためつ、きと、たあ、  
あつためつ、きと、たあ、

武蔵野地名考に云、西の方甲信二州の山甲より武州

多波山の山谷と流き出く東の方播磨郡の初回の浦  
の方と海にゆき凡軍津里矢口の海と比河のよまなり  
按とる多磨川の源八甲信二別の中一といふ事  
甲斐とては今丹波山といふ詳と後と何とて  
甲斐とては今丹波山といふ詳と後と何とて

甲斐名勝志といふ丹波山武蔵國多磨川の源なり倭名物  
と武蔵の多磨郡と大婁と注と此地を往古日本武尊  
當國へ入る路也今大菩薩通るといふ

按とるたつ川を源と甲斐國都賀郡丹波山と後と  
ゆきと名代得といふ郡名を其直帶さる水とては  
水名を温觸乃山と取るありといふ

も多麻和名抄といふ多磨の作と音とより字と填せ  
まてとてと意義あり丹波もまといふと音代能る  
あく字の吳ありと流といふとて川の源流ハ彼郡丹波  
山村の山中より出ると本流といふと郡丹波村乃山中より  
出る二流といふと丹波山村尾村二村の間と過ぎ尾屋  
村法瀬村の間と高尾村小菅村の奥より出る小菅川  
といふ一流といふと鴨沢村の上より出ると尾屋村の奥より  
出る尾屋川といふ一流といふと又鴨沢村より出ると小菅  
村井持村の間より出る一流といふと尾屋村の奥より出る  
武蔵入りの小山河内村の奥より出る小菅川といふ  
一流といふと尾屋村中山村の間より出る水根澤川といふ

一流を合し、まに氷川村あり、山の方根父那よりあり、物  
日赤川と云一流を合し、又棚沢村と小丹波村のよりと、少乃方  
峯村よりあり、物一流を合し、又丹之原村龍壽寺の間  
にて南の方御嶽山よりあり、一流を合し、又川井村沢  
井村の間と、少乃方大丹波村よりあり、大丹波川と云一  
流を合し、又澤井村二又尾村の間あり、少の方より、流を  
知る平溝川と合し、それより青梅村の南と流を、羽村  
の東南多花村二宮村のよりと、西の方平井村の奥より  
あり、一流大久野川と云を合し、佐目高月二村の間  
と、秋川に合し、秋川の上二流あり、山の一流は、いまは流を、  
よせと南の一流は、いまは流を、又東南とあり、物、数里石田村と一宮村との間、

て大和国川と合し、大和国川の上二流あり、山の一流は、  
よせと南の一流は、いまは流を、物、少乃方府中北南とあり、それより数里北、南のより  
合し、物細流あり、物、多摩郡中島村と檜樹  
郡登戸村の間あり、二流川と合し、三流川の源は、  
於龍郡墨川村より、多摩郡諸水乃合流とあり、物、大河とあり、物、  
さらなり、今郡下水利乃流とあり、物、水を作  
くもの億兆と云、於、実と、南側の名水といふ、登戸より  
下南の地方、福新、新園といふ、物、数里あり、物、檜樹  
郡に属し、少の方より、多摩郡に属し、登戸郡に属  
し、物、地方、下野毛村より、羽田村といふ、物、多摩郡  
多摩郡の名、此川より、物、多摩郡に属し、

讀人志く次 萬葉集

多麻河のさきほたるのうさくら

同 拾遺集

玉河のさきほたるのうさくら

伊勢六補 支本集

玉河のさきほたるのうさくら

藤原家隆卿 建保名所百首

玉河のさきほたるのうさくら

玉河里

名寄ふ載と名所抄 類字松葉歌林載せと名寄ふ

先達奇枕玉河里者奥州在之其奇悉載彼和年但  
近代奇多尚因玉河里詠之名所抄の六攝津と載せ  
陸奥因名と云と

建保名所百首玉河里因名と云と云と云と云と云と  
より此奇の六本國の事 明なり

名所方角抄云多摩河里

按と云に今玉川郷の比企郡とありと大橋腰越の軍  
沢妻原玉川根等々の教村はと云と云と云と云と云と  
さしと云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と  
波との二村あり丹と多と通と波と摩と音通と  
是は是とむくの玉河乃里なりんれ近き武蔵

國調紺布九十端縹布五十端黃布四十端自餘輸絶  
布庸輸布といふも此れなりとせしむる也

藤原定家郷 建保名部百首

多作やさしん垣根乃船露成法くねきとらぬ玉河は里

前關白 藤原道家公  
新勅撰集

くふより八波くかりとく甚なむとや垣根乃玉川は里

### 向岡

名不抄類字名寄 松葉歌林並く我と名取抄の源ふ

一説に河内

萬葉集に云向岡

萬葉集

風土記に云多摩郡北限向岡

又云豊島郡北限向岡

按と云く向の字恐くも恐の字此誤あるん説恐

岡の字に詳あり

藤原集に云むつみの名

名所方角抄に云武蔵向岡

名所補翼抄に云新勅撰十九は小町ら武蔵野の向岡

とよらふ外も名取にあり

武蔵野地名考に云玉川の流と少く帯く西は小山岡乃

関よりけりまらなる末長の里と終まり是の長程六里河

まりむきく南ふむより多摩郡橘樹郡のうらあり

江戸砂子云向岡を松平出雲守及榊原武邦大捕及  
扇谷邊云云む一思一岡今の上奥州への街ありそ  
の道より他とあり一む一た一ゆ一名一と一取一り  
江戸志云云向岡榊原家扇谷の辺云云江戸砂子云云山町云云  
身引云云此交一と一され一と一む一ひ一の岡云云武邦陣地名  
考云云此交一と一あり一云

四神地名云云享祿三年上杉朝興玉川を云云河云云  
陣一山像氏兼向岡の小澤の系一屯一一一軍府中  
と合戦一上杉方敗軍せし一軍軍書一記一あり一故  
里人一事跡を尋一た妻一一一知一は人一あり一ま一と一也  
それより山町のる一知一ねと一ま一む一と一又一山向一と

いふ名を玉川より南に在りとの一い一く一実証一也一  
次多磨郡乃名也なり

按云云小園東治乱記小享祿三年上杉修理大夫朝  
無一河越の城一あり一なり一小田原の氏綱一退治一て  
先年一此一也一と一雲一一一と一武州府中一と一出一治一  
て一多一と一園一え一た一れ一氏綱一云一子一息一新一九一郎一氏一兼一と一押  
向云云同六月十二日上杉の陣一押寄一と一り一所一を  
武邦府中玉川の端小澤系云云と一云一交一入一押寄一と  
あれと向一思一と一り一か一り一と一な一と一え一ん一い一ら一書一と  
何一ん一や

按云云小園東治乱記小享祿三年上杉修理大夫朝  
無一河越の城一あり一なり一小田原の氏綱一退治一て  
先年一此一也一と一雲一一一と一武州府中一と一出一治一  
て一多一と一園一え一た一れ一氏綱一云一子一息一新一九一郎一氏一兼一と一押  
向云云同六月十二日上杉の陣一押寄一と一り一所一を  
武邦府中玉川の端小澤系云云と一云一交一入一押寄一と  
あれと向一思一と一り一か一り一と一な一と一え一ん一い一ら一書一と  
何一ん一や

とて六方位ありては僧亮盛寧巡禮記の序に狭山とて  
向國とせること（注）統撰山の  
りよあり 風土記の方位より多し且多摩入  
野の中圓の一堆とありて今もこれをまきと都界とせり  
これ八向の國八所ら狭山乃一名と地厚ゆされと志けり  
四喜説と後ひく別とこれ紙載と

榎本人麻呂卿 弟集

出くまぬむらた島の志はくさたる花のたけり

小野小町 家集

むらた島の向の島はまがれ八福紙たつてもあらんとて

隆源法師 歌林名考

夕自す向の島乃郭云雲のとてそれなりとて

後鳥羽院御製 御集

くしはふ向の島は山松とて月ゆるまきとて

同

松とまらむむの島は夕涼秋よりはまに風をあらは

藤原定家卿 愚草

夕の自向の島は為のむらまきとてしき秋乃を

同

ひたへて向ひの島とてまらつものまらふよあ

藤原家隆卿 弟集

あのはらまらむら月やせむん向ひの島とて移り

藤原知家卿 續古今集

秋のしづかにもささるる月をみれば  
藤原為家卿 十首

夕陽のしづかにもささるる月をみれば  
同 歌林抄

夕陽のしづかにもささるる月をみれば  
皇太后宮女房常陸守久四年百首

思はせしむる月をみれば  
藤原信實朝臣 文永集

秋のしづかにもささるる月をみれば  
後一條道前左大臣 藤原實経公  
文永集

秋のしづかにもささるる月をみれば  
秋のしづかにもささるる月をみれば

藤原光俊朝臣 文永集

源邦長朝臣 新後撰集

藤原為実朝臣 文永集

よみ人不明

鳥のしづかにもささるる月をみれば

狭山

類字名寄松葉歌林並不裁す類字に沓河用名寄抄載せし



隸と山台領ち多摩入間二郡の繋り多摩より属する  
もの凡十八村入間より属するもの二十八村を狭山の麓に  
散在の山台よりを狭山の口より北より南にあり居  
こしく向國を全くは狭山あり一余嘗て山台領部  
堀村の親善堂よりありそより山徑は急して狭山を  
清い箱根勝つて一折しも映山紅の咲き  
咲きわきりありやむもよもすよとよと  
ゆいゆいゆいゆいゆいゆい

大江匡房卿 新後拾遺集

ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
藤原顯季卿 千載集

五月園の障子の火を雲の絶りのり

後鳥羽院御製 續古今集

秋風いさくは葛きくやんらりか

狭山池 一名箱池

名寄狭山の下に池を附一或河内と載と松平の第  
池と載せ又狭山のりも池と注と類字秋林の池と  
揚々はその秋は狭山の下に載るは名寄抄載せと  
八雲抄抄と云ふの池は

交本集と云ふ年の池河内又丹後或肥後

山園紀行と云ふのりかいらりあり

詳と云ふ  
と云ふ

江戸砂子云俗溜池と号すの狭山の池と老案や傳ふ  
此説をかくしと云熊谷宿より石原宿の右の方を程定  
りしより太田良言湯射玉井十郎の齋治ありけ右の方山  
のたぬ山に池あり田丈ハ龍尾の元山といふ美談の親世音ありカ  
士門の額ニ沙山の二字ありは遠く同く池ニ西あり一西  
沙山のかしらにありと云龍生茂まり一西を嶺山村藩派  
龍尾村郡の田の中ニ深た池あり宗祇方角抄ニ程父  
根山荒川沙山といふ名ありと記せし右の西と云  
るをこれと考ふる溜池と狭山の池といふも是つゝまた説あり  
武蔵野地名考云云と云もの池ありあり二十町とありこの  
池と云云傳によき  
と思えたり

又云久米川と云細き流れありと云ぬと云もの一紙教して六  
七里と云く入間川のまゝに合流と

武蔵野遊事云云程根ヶ崎といふ所と云る此池と程と云ふ  
田池あり不名狭山の池といふ葦菜の名ありといふこの池  
乃たさ凡十町四方もある一四方皆山林して池の方ハ武  
甲の遠山雲は篠原と云ふの園ハ則狭山西水の極りなり南  
ハ林深溝く葦菜の大畝ありかくまて奇観ある池今も  
こもく芝村と云ふ一池の形はとほとほに存せり芝村  
北東のこもよりと云三十間ありの池ありと云に跡あり  
中洲と云天女祠あり此池の潤ふる来由は土人の園に  
昔年此村と次郎と云湯といふ土民とありおろし夏の

頃矣熱うたえうぬ此池と浴せし時小蛇来りてかみ此  
の頸とすまふとありう移くかこましく蛇とさうすまふ  
喰きりてその幸きありて岸よりぬえりうらたか乃  
半断よせし蛇とさふき蝮と變て死しるよし次  
才と池あり洞湯と今もこのこくなれりるよと葦葉  
も今も此池より存く此狭山のほき宅部村小沢といふ  
池と多し又山あり道の肉部といふ村乃四池も  
ありよ

按とらと狭山池一名箱池といふ箱根の傍に在ゆ  
ありし松葉集別と箱池と掲るる名の変りゆ  
よやとの実一池かろき疑ふありしその地形ハ石氏の  
武野遊草とこれ記し余これ遊したる地は年々  
畑と記しきこるゆゆまを牧羊の後今此池の傍と  
よこるるなりあり

よこるるは古今六帖

慈母とありぬの池のみとてひひとせしれぬあり

藤原仲實朝臣 交本集

春ふとありぬの池とぬぬはのこるけもなかくかりか

藤原定家卿 愚草

凍れとありぬの池とみりも春のありたり

藤原季能卿 千五百番歌合

媽とありぬの池のみとてひひとせしれぬあり

藤原隆祐朝臣 夫木集

とくさふたの池の傍に かげのひまわりを御のいと

ト部兼直宿禰 夫木集

あやふさふさの池の傍に かげのひまわりを御のいと

藤原光俊朝臣

燈籠の傍に かげのひまわりを御のいと

兼惠法師 北國紀行

氷の傍に かげのひまわりを御のいと

和經法師 夫木集

冬ふたの池の傍に かげのひまわりを御のいと

小山田關

松葉の裁と名取抄類字名寄歌林載せん

夫木集と云ふは此の関武彦

吾妻鏡と云ふ小山田三郎重成 文治五年

又云小山田四郎小山田五郎 文治六年

畠山系圖と云ふ小山田別當有重小山田五郎行平 平一作重

太平記と云ふ小山田太郎高家

武花野地名考と云ふ関戸小山田此関と云ふは此の關武彦

處に 此里の山に 此の關武彦と云ふは此の關武彦

うしろの山に 此の關武彦と云ふは此の關武彦

まじりて 此の關武彦と云ふは此の關武彦

わづらふ陪れ軍やわづらふ英雄の人々わづらひけり  
こころをわづらひけり冥戸ハ府中より二十町より南  
にわづら河の向のきつりまらる里なり津戸三原四原も  
けりわづら石田といふわづらりてのわづらり  
四神地名縁といふ冥戸村といふわづら多摩郡のうらわ  
玉川の南に在古名わづら古小山田の國と稱し國の  
古名といふ

余嘗て舊記に從ひ國戸村とあり小山田の國址を採  
りて夫人の好古の癖ありと傳へて五虎と傳へ  
久々わづらに傳へて好古の癖ありと傳へてわづらわづら  
國といふはまに知らぬ今村中ふ古城址ありは是とて

國址と附會せしむるんといふわづらわづら國戸ハ日野 吉富  
を屬し小山田庄の外るれは是とて小山田國といふ  
とい雜し吾妻鏡元久二年乙丑三月廿二日の下り畠山  
次郎重忠叅上之由風聞之間路次可誅之由有其沙汰  
相州以下被進發軍兵悉以從之云云關戸大將軍式部  
丞時房和田左衛門尉義盛との世太平記新田義貞起  
義兵條に新田の人々旗を奉り上野國小起り武花國  
へ打越ると國々の將軍ハ定て鎌倉をへたも待給す  
國戸入同河の邊ふ合てを防ぎ強んといふ云云又鎌  
倉合戦の條に鎌倉中の人々昨日一昨日すとも分陪  
國戸の合戦より勝方打負ぬと載はけ二書しを冥戸

どのく小山田の園と稱せしるものも況や今も小山  
 田在りまこと園戸はこれに屬せしめて吉富庄に屬せしむ  
 ちるいぬ小山田園といひはは園戸とてありし事  
 必せり余又おしらく今小山田庄に屬せしもの十村大森村  
 上小山田村中津田村並に柳蓮光寺村蓮光寺新田柳下  
 小山田村金井村能谷村山崎村以上各村金森村本所これハ  
 小山田園ありし必上下小山田村の内ありしとせしむ  
 是れは福祿く園址探せしむ二村乃内園ありしとせしむ  
 傳はせしむよしくた下小山田村とては大泉寺といふ禪寺  
 の地小山田太郎高家の城跡ありと傳ふの事なり河合  
 某の園師村抄のうりに小山田園を園師村のうら柳本庄に屬す下  
小山田村に隣り

大森院といふは修驗者の先墓の傳る所を記あり中古  
 藤園法郎某住居一園のりをもつしとせしむけるは藤園  
 の園とも稱は言ふ府中より相模園への樹をハ山形路  
 町園師村本曾町と稱せしは園師と園あるも此處あり  
 といふり園とてはた今園師村にハ庄名なりといはれと近  
 村多く小山田庄をいふ古き此村をたけし一庄ありあり  
 しとせしむは園のありしといふもひさことまへありし  
 於後の考証材の事又小山田園といふは藤園と稱し  
 なるんといふ説ハ田園雜記より附會せしものありハ  
 しとせしむ藤園の下に辨しとせぬ

あつとく苗代ふふりてあつとく一はあつとく山田の国なりき  
よみ人一人

多麻郡苗代水くまらせとそとていふは山田の国

### 横山

名所抄名寄松葉並に載と名寄之武花多麻郡又  
和泉と載と松葉ゆも又和泉と載せ又玉横山常陸と  
載と数字歌林載せと

系集集と云與許夜麻 味助

又云多麻乃余許夜麻

拾穂抄に見安云武の横山名所之代匝記と多麻

のよと山ちり一多麻郡とある山と名牙十四ふあふ  
きのよと山へりともはあつとくこれ名とあつとくこれ名  
國とあつとくあつとく入つとく八國名あつとくあつとくあつとく

八雲御抄と云と云と云武

又本集と云と云と云和泉或武花又常陸

藤原集と云と云と云と云山常陸

吾妻鏡と云横山太郎時兼 壽永元年

又云横山野三 文治元年

又云横山權守時廣 文治五年

又云横山三郎横山太郎 文治六年

又云横山馬允横山六郎同七郎同九郎 建曆三年

又云横山庄大膳大夫 建曆三年

武藏七黨系圖云横山黨 小野氏 横山大夫義孝武藏權

介始住武州横山

又云村山黨 平氏 横山五郎家光

武藏志料云云山今青梅郷横山村ありそのことり於

梅郷に青梅郷の多し横山村といふあり國圖に多く

青梅新町と横山町とあるをり青梅の東に村山

村ありのりこれらもや混らん

又云多摩郡のよと山多摩郡にあり地名なり横たをれ

園といふをまゝ郷名と古に降戸といふ多し和名録に

と見えりなすはとをさるを即いぬるの降戸ハ今もあり

班固の時割りまをり西中と改いぬるやあらん今もかく

いふ地名まゝと見えり今も青梅と横山村といふ有云

又日本紀安用と横澤ありその西もや

武花園郡村記云多摩郡横山町

按とるに横山とてその詳あり今多摩郡に横山庄有

八王子の南にあたりこれに属するもの大谷村 武山郷小宮領 山

田村 総領 上柚木村下柚木村落合村 柚木領 中相系村下相

系村 赤系村 散田村下を分形村大舟村松系村小比企村寺

田村 小山村領 凡十四箇村ありまゝこれの山もて

もあるや又八王子に横山村と云われと原考韓いふこれ

り小宮領横山よりうたり村といふ八王子北元八五

子より移りてはと同時かぬハ古きものには河内ノ  
山より今横山といハ地名のまじり大石氏の信々神護寺  
といハ城址のある山下ありハまじり西ハ二里許りあり  
其のれとも古歌によリ横山といハ地名をいふといハ  
りも河内山といハ横山とせハまじり大石氏のまじり  
於後の考証まじり

漢人志ハ古事集

山名考証

宇遲郡黒女豊後郡上丁掠  
隣郡荒虫之妻

あつた

藤原顯仲朝臣 堀川百首

明くはみそらの外にかとまじり

### 横野

名寄と載と又和泉上野とと載と同名有とと名所抄  
類字松葉の上野類字松葉と又玉横野和泉新拾遺集  
徳人不詳の  
歌一首  
と載す歌林載せと

夫木集と云横野近江又上野或河内と云と  
乃河内

日本紀と云安閑天皇元年閏十二月武蔵國造笠原直使  
主與同族小杵相争國造云云謹爲國家奉置横渟橘花多  
氷倉櫛四處

勝地吐懐編云横野堤類字名和泉系其れの横野乃堤

風をさく入地をさくふる等之仁徳紀云十三年冬十月

築横野堤延喜式云澁川郡横野神社延喜式よりて仁

徳紀と按とるよ横野堤澁川郡於難波宮にましく

これハ殊に河内攝津の國の供ありければせむひと堀江

をさくせむの合さくさく和泉の横野ふるま

物と見えて事なり

又云横野類字上野紫井ねとよと此のつら董生の袖より

つらん色もしゆすけ奇も系葉第十にはこれ根より

横野の其れ根より若くはけく嘗あま是をとりて流れ

よりけ上りかさくの山羽のひの山佐保山とよ老る

奇に交りてる六け横野も上りける澁川郡の村かして

物ほもそ上古の人へけぬ國へぬ西もへる老るの歌お

りき中へるとに廣く物とよするやうれ外へ初より流る

けさ六けふはとるよ上野の名よめる奇にるへるゆや

武蔵志料云け説こよれハ夫木抄其の奇ハまか按

津國澁川郡の横野をよめふ奇或もそれをとり

てよめれと當國の奇とすくは但一武蔵志料こ

は案と昔より讀あうりこれハこれ等の奇もは案に

ひるれくは國の奇とらるゆや

武蔵志料云横野ハ上古乃よ横山のりよりあやあらん

又云八雲河抄宗祇勅撰名宗抄藤原隆家よ上野と有

又藤原家と和泉と有横野院ハ和泉と有今櫻木家  
と藤原家多ク和泉と有ハ武彦野の肉乃一名和泉乃  
横山と有藤原と有和泉抄と有之ハ藤原家と有  
又云本抄玉回横野有河内之と物と有之如何  
横野と有横野と有之ハ今多摩郡と有横野村  
ありのと有之ハ國音通と有ハ横野村と有之ハ横野の  
横野と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の  
横野と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の  
横野と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の

藤原家隆卿 秋枕名寄

雲と有之ハ和泉の本抄と有之ハ横野と有之ハ横野の  
横野と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の  
横野と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の  
横野と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の  
横野と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の  
横野と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の

漢人志と有之ハ新拾遺集

終夜そのむらみくとなり玉の横野の 秋乃月乃

頓阿法師 草庵集

横野と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の  
横野と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の  
横野と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の  
横野と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の  
横野と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の  
横野と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の

右多摩郡

荒蘭崎

名不抄類字名寄 松葉歌林並之載と

名不抄類字名寄 荒蘭乃崎

拾穂抄と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の  
横野と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の  
横野と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の  
横野と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の  
横野と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の  
横野と有之ハ和泉と有之ハ横野と有之ハ横野の

藻塩草と云荒菴崎武荒

田圃雜記と云芝の浦といふ所とあり久保の塩屋の烟  
草とありひききく物といひききと云田圃といふ所  
浦といふ所とあり井といふ所

小回原北條の限帳と云五拾三貫六郷内新井宿梶  
原日向守

紫一本と云小川大森の巻乃波打きり紙ありの所と云  
江戸砂子と云荒菴崎鈴森の磯也

武蔵野地名考と云荒菴崎在る郡あり井宿不入斗  
村といふの海邊と云未考

再校江戸砂子に云ありの所といふ所  
荒井宿村のうらといふ所此山往還と云相州街道之宿場  
なる所といふ所

武蔵志料と云品川の南西に新井宿あり此宿あり  
江戸志と云荒菴宿鈴森の磯也

四神地名録と云荒菴宿古く此宿海邊と云往來ハ批  
雲寺といふ寺のうらと云國を通りせしと云古名を荒菴  
と稱せしと云國の名を定家郷の寺有りとい  
傳の拍と云りなり歌船の別とありの所と云り定家郷  
の寺傳と云磯と稱しと云と云事ありといふ  
是ち里人乃古きと云付持ありてと云書と有り  
端と云り

北川一善云荒蘭崎崎玉郡笠原村の北にあり今新井村と云  
按ずる不此況いふべしと暫く後考まをるべし

按ずる今此池上街道八景坂一名茶とあり右のくさし松  
重寄といふ程利と隣に本末氏の跡ありうらうらの山  
とある山と移とむべし此街道まこの山の上よりて所謂荒  
蘭崎是なりと今も土人のいひ傳ふさらば再校江戸砂子  
に荒井端村といふもあなれば磯の名の残り一ありてかく  
てを獨りあらんのかうもよくわらふべき

源家長朝臣 後後撰集

志す波のあゝわれ磯のそわれ松かゝるぬをこ人せつれふに  
藤原信實朝臣 千五百番歌合

あまは風あゝおの磯よる波のうらもたあまの今を遠き

今出川院兵衛 支本集

あまは浪あゝおの磯れ波風と吹よせむをく鳴るあまの磯

道興准后 田圃雜記

あまはうらもあまはあゝおのうらもあまは波とむらるる岸の松風

荒蘭磯

松葉に荒磯武蔵春雨抄といふ尚國武未勘といふ名雨抄  
類字名寄歌林載せしむ

支本集よもあゝおの磯武蔵

江戸康子に云荒磯松ハ鈴森山よせに在池上の道助也

江戸ありまゝ荒磯の松後の森の磯の松瀬風よみてあふ  
こゆりーろー

江戸名勝志に云麻子の昔荒磯松林森山よせに在池上の道  
とらふとはいゆるこの松のり次流るれ名取志に松林の磯  
に存と云記とよーとん

四神地名録に云磯別松と稱せし松の大樹今の熊野  
権現の社迎くまうふ十年より一木より一枝こふ折れ  
出ふより地頭よりきりく掘雲寺よあらる今白子に  
了くちの什物と云磯別松と稱しと名なき松を松別  
須磨浦に在り同名あり此松もあらる事よ此西ふ古ハ  
蘭教多生せしゆ急あら蘭磯と稱せしよーといひ

松と云に荒蘭磯と云集りて載されも後の世の書よら  
荒磯の松とのと出より今の松林と名ふりり昔は海  
中ふれハ磯といひていふとていひ一本あつといひ  
の磯別松の切株とて今も存せりさて寺のうらふ  
寛文四年甲辰木原義永の建てし碑ありそれよ  
荒蘭崎之磯別松是ことといふと磯と稱せしハ此  
山の裾らる事必せり

藤原季能卿 千五百番歌合

松きは浪あはれ舟の磯乃岩よ抑る松まはにる袖のうらふ  
裏と云顯昭判詞云荒蘭崎とよらるふ奇よあま  
付れハ何らるの磯も付らん磯と崎とあかす

よりの事なり〜と〜なる所や〜あり〜と〜なり

### 笠嶋

松葉小載と名を抄類字名寄歌林載せり

笠嶋集と云笠嶋

仙覺抄よ笠嶋武蔵

八雲所抄よ云云〜は武蔵

交本集よ云云〜は武蔵

紫一本よ云云笠嶋〜と云〜川大森の邊の波打  
きり波あり〜は武蔵

再校江戸砂子よ云云笠嶋石の邊居沖あり〜は笠嶋よ

相の〜残り〜と寶永の大地震〜あり〜と〜ありその

りと水沖りの〜あり〜と〜笠嶋の神社の邊あり

と〜笠嶋神社と笠嶋と〜と〜社と〜又笠嶋の社を〜

と〜又〜と〜の〜と〜社あり〜と〜

と〜

或書よ云云笠嶋八幡の境内と池あり縁の池ありその中れ

多由縁笠嶋と〜と〜と〜古歌〜と〜あり〜と〜

りる是なりと〜と〜と〜地の〜と〜と〜

る〜地〜と〜と〜と〜と〜

近藤孟郷と云今笠嶋の邊あり〜と〜八幡の社

あり〜と〜の〜と〜と〜と〜と〜

仙よりあるもの崎の笠島と誦へるやうに

北川一善云は笠島を崎玉郡笠原村とあり崎玉村より一里餘東南村内

吹上あり一町四方もある一慈母の神社あり是笠島と

按するに此説まゝ取らる

按するに荒蘭崎今の新井宿とれと笠島中と異なる  
ついで於森八幡と社人のいひ傳へて延喜式に載せ居  
磐井神社とをばむら海中の島とやありし近藤  
益郷の説後へきと仙より

よる人志はあま集

あまのつら井は崎のかういふとんはや若く記し居らん

藤原為家卿 夫木集

秋の夜乃あるもの崎のかういふとんはや若く記し居らん

### 右在原郡

### 忍岡

名簿に載と或る河内と同名ありといふ名正抄より忍岡  
河内信実岡陸奥類字に河内一説武州と載せ陸林松  
華とよ河内と載と

八雲海抄と云志の心の吾武翁

夫木集と云忍の乃と陸奥

藤原孝と云忍岡河内

小園紀行と云忍の岡油井橋とていふ此記より忍の

本條をいふ

又云武彦時之在比良山忍の園に優遊し傳法庵社  
五條天神と申侍りといふ一柱の芽を燈侍り

田園雜記に云次の日淺草に立く新羽梅屋の新興の  
那能那とあり

西よ押のしき侍とて名をいふる中忍の園といふ

と松多れをいふるいふくやとていふるといふ山名川と

いふる西よまうりといふ

名所方角抄に云忍園 白雲の  
りて裁

續無名抄に云忍の園といふ所の東敷山寛永寺あり南  
光坊慈眼大師の開基なり寛惠法平の紀行に十二月  
の末ついで武彦の志のいふるは優遊をり彼所の語ると

忍條の天神といふんや侍りといふ

江戸抄に云忍の園を敷山の惣名に

再按江戸抄に云忍の園は古城といふり大永四年甲申

正月上杉朝貞の家老太田源六郎金吾源三郎五郎

て小田原に通し相園と定む北條氏綱一万五千餘兵

を率して武彦時之城といふところ城を朝貞八千餘兵

よそ忍川まきく押し出お殺しはあふうら負て引くと氏

綱續て城といふ一浩る相貞といふるのそ夜のうら河

越の城に在る氏綱翌日城といふ忍の園の城より遠く山

四郎左衛門といふる忍の園といふ今の上野といふ又

といふ忍の園といふる忍の園といふる忍の園といふ

名をかねていつまう非なるん或人のいへくも一姓の出  
城のこゝ上野の地こゝもあらんうお川へ押出ると又出戦  
氏綱一軍もく首実檢せしとあるも赤坂よ今一木とのふ  
西あり是も古き地名のよゝるれは函根もむよと申とあり

按とらん関東治乱記も大永四年上杉家老大目  
源六回源三郎謀叛と起し一山田系最と訂合相圖を  
定りしうを別時刻を移さし山條新九郎氏綱伊豆  
相模の軍兵を引率しして江戸の城へ寄りの江戸乃  
城主上杉修理大夫朝貞居あしし敵を討ち武果  
善きし似たりとて品川へ打出乃しうく敵を討ちたり  
去程よ山田系の子孫と上杉は勢當我四郎と品

川の筋言繩の筋よそ録合せ云云上杉忽よ打負て  
江戸の城と訂合云々朝貞終つてらえう孫傳よ今れハ  
城を閉く回國川越へそあひたる夜明けまは氏綱  
敵ハ子孫ありと見えゆそ追拂く討て板橋迄まで  
勢を治るし一高杉兵隊追討しこそせしれたるそ後  
城へ打ち入討ちの首実檢ありし一木系は終先打  
立云々江戸の城は幸山四郎右衛門と銘らましく山田  
系にゆとあれと武義邦の城忠國の城の沙汰あり  
恒是形ありしるも何のまらるやおのよは是ハ江戸の城  
との城避く武義邦の城と作るもあはる國の城と  
いふ處をも治乱記も江戸の城と作るうらうら

按るるに北國紀初回國雜記等之據に忠國のまじりて  
今の東叡山あつたの地なる事なり。但風土記に多摩郡  
北限向國といひ又忠國郡北限向國と何れを忠國郡の  
北限と云ふ忠國のかきりある事なり。今忠國郡は二  
郡の邊に荒川をまぐる忠國より入る事なくの里程を隔  
てて山にありて今迄のくもあはれいとあや〜とれと上  
州にゆるる松方尾久二河島の向より荒川の入口ありて  
大なる沼なり〜とありて二郡の境も忠國といふ事なり  
又上州のう〜と根岸といふ地のある事なり。荒川忠  
國の根をなすなり。従ふ事なり。

前齊宮河内 堀川百首

あつたに忠國のまじりて今迄のくもあはれいとあや〜とれと上

藤原範兼卿 夫木集

あつたに忠國のまじりて今迄のくもあはれいとあや〜とれと上

後惠法師 家集

あつたに忠國のまじりて今迄のくもあはれいとあや〜とれと上

藤原俊成卿 夫木集

あつたに忠國のまじりて今迄のくもあはれいとあや〜とれと上

賞實法師 新後撰集

あつたに忠國のまじりて今迄のくもあはれいとあや〜とれと上

藤原知家卿 現存古帖

あつたに忠國のまじりて今迄のくもあはれいとあや〜とれと上

友原富家名寄

人あひのまのひの思ひかゝるまはあまの神あぬらん

後九條内大臣 友原基家云  
交本集

よひのまのひの思ひかゝる神あかしく誰の思ひの思ひかゝる

頼圓法師

まのひの思ひの思ひかゝるまはあまの神あぬらん

印宗法師

まのひの思ひの思ひかゝるまはあまの神あぬらん

後押山内大臣 友原基家云  
續古今集

まのひの思ひの思ひかゝるまはあまの神あぬらん

竟憲法師 山國紀行

まのひの思ひの思ひかゝるまはあまの神あぬらん

道真准后 山國雜記

まのひの思ひの思ひかゝるまはあまの神あぬらん

忍社

名寄小載と名寄抄類字松葉歌林載せと

枕草紙と云本林八忍ひの森

八雲御抄と云志の人の杜陸奥

交本集と云志の志乃森陸奥

山國紀行と云忍の思油井島あといふは忍の森

と云いふ

名所方角抄云忍の園森

江戸志云忍杜 方角抄を引  
すまをまら

武江披沙云蜘蛛糸案集云東叡山の六極野  
又云忍の園といふ也池八丹穂の海をうらうこく也池の  
向と八忍の森といふなり其森も今八おろくの大名く  
の屋形の地とあり

樓と云く名所方角抄云忍の園森とあり云くこれを忍  
杜八きとらう忍杜の杜とてふ如きはく一池の面を忍  
杜とて記されと忍川忍橋の勢ゆく後子階舎をくいの  
くあくとや

藤原経朝卿 文庫集

名所一抄云忍の園森ののみちを此といふ時あり云く

顯昭法橋

とく一抄云忍の園森ののみちを此といふ時あり云く

よまへく一抄云忍の園森ののみちを此といふ時あり云く

人志杜と河内と云く忍の園森ののみちを此といふ時あり云く

### 霞關

名所抄名寄松葉歌林並に載と類字載せと

風土記云在原郡東限霞關

文庫集云霞關 國名を  
記さす

藤原草云霞關武蔵

田園雜記云々此河より入るはよやうりて云々名々云々一書の  
筆を懸て云々此園をこゝろとて云々此河といふ所也云々  
名所方角抄云々此園西云々此園あり此河の西云々此河富士  
云々此河西より川なり云々

紫一本云々外橋田の所門をゆく此所門より南へゆて浅井  
氏松平綱晟の屋敷と松平右衛門佐光之の屋敷の間の道  
河のゆる坂を渡る矣と云或人云此河より南の方乃坂虎  
の所門山王の所坂と須山の園といふ云々一書は云々  
古名相馬弾正昌胤の屋敷とて海より岸の松竹あり  
と云云一書云々此河より入るはよやうりて云々此河  
とて水色長天と云云

江戸砂子云々此園往古八奥州への往還ありといふ  
求源雜記云々四谷大木戸往古の所也園この大木戸あり云々  
奥州往還大木戸武州の大木戸とて往古の園なり云々  
武蔵野地名考云々此園往古八荏原郡に属し今八荏原  
郡にあり

江戸志云々此園往古此河此山と云右大将頼朝天下  
と治め諸國の守護をこゝろに在園の地頭をよとて奥州海道  
を隔河川に隔り此山の麓に要害と要害と接する園と名付  
江戸太郎重長是をうけつり往還のよとて此山稲荷の  
社傳よと云云

又云麻布橋田町此山稲荷とて八奥州に在橋田引

地の此此西と移さるゝと

又云大木戸を鹿園といふの非なり大宗寺の山号を鹿園  
山といふより何やまるなり大宗寺ハ元鹿園近邊に在後  
此四谷と移るよりあり今以山氏を鹿園山といふ

武藏志料に云鹿園の西首を考ふるその據なり武藏野  
の曠野といふ江戸の近邊ハ山川の險阻もあけまへり  
そととも知つゝ此野至りても本野とても穴門ハ山河の  
險阻要害の所とまうけおくるゆゑさる所方てなり箱  
根碓氷の如きこれなる要害の所と今俗に傳へ様園と  
此名有と今その所とるるこ首て園氏と云き所とるる  
又或云四谷大木戸の先大宗寺を鹿園山といふ所の所と

又麻布を山福所との所といふ所の所と云文ありま  
し毛麻布と云ふ所と山丘のある所の所と云わ  
あつんと思ふと毛ま何の徴をかりて園推のまは  
てその益ありと

江戸往古圖説に云鹿園舊址今藝州彦根筑前彦根の  
わたりといふ所と傳へ云往古藝州往還ありと  
所の方海ふ  
所を遠く瀉と云岸の松生ありと云  
の云渡橋をとりと鹿村と云あり此云云鹿園の所と云  
を謂ち宗祇云西の方高く富士と云と東の方川流る  
と有田園雜記云鹿園を越く巖窟といふ所處有と  
云云況遍くして一定にわたりおれりる名なる古所と云

里を二子降威より及る地境より昔を今に改り世傳り  
物傳りて蒼海桑田の變かたよあはれ今編りて其年  
多しこれハけり古く系際より陸奥の往復の地にお遠  
有まし一そ境の海を考ふる外樺田西南の方高く富士  
を坂よりり又赤坂津門より向へりること餘程の坂より此  
地より高き如き山とも云へなる也

按とるに江戸志武務志料の記よりみせる所似り風  
土記よ荏原郡東限を鹿園と載るを今此樺田の鹿園  
と云れハ荏原郡より東にありたるの疑われと風土記の頃  
ハ樺田赤坂より荏原に属しこれハ今の鹿園よりよく方  
位あり名所方角抄より西の方園あり東向乃西をれハ富士ハ

んを以てしるがといふに陸を以てしる業此ひとのやハ遠  
くぬ書けり古く相馬昌胤の屋敷本を毛海より岸の  
松生所りしるより舊記よりんを以てしる載るより東限  
鹿園といふる疑へり及江戸志よ鹿山稲荷の社傳よ  
右大將頼朝よりめく鹿園と名付るの記を吾稽といふ  
るに風土記ぬを本より鹿園と載るの外古き歌ありこ  
ゆるや志料ハ險阻とありこれハ園山成おるといふ記も  
中こ心得くし英徳國不破園按岸園須磨園ありて  
るに險阻の地も何れ及今記よりこれハ樺田のあり  
るハ切りて平坦の地ハいひく麻布の裏山といふ  
險阻とせんこれ幸強附會ともいゆしこれ圓園雜記ハ

叶園紙越てきつ窟といふ所とありたり多應郡とてあり  
んやかと疑あれこれハ淺き紙多くと新羽といふ所あり  
き侍と云文例よくあつらひは逆の地ありとていふこと  
理ありんや

慈徳和尚 拾玉集

峰子名も毛鹿の園よ存すけりるり人紙立と海建と也  
同 丈夫集

吾輩よは毛鹿の園乃名にそく着たることを人告らん  
藤原定家卿 家集

やとてつとく越ける甚の候と也毛鹿のきだの名もそくを  
菟原光経卿 家集

心めてあそれうとそくを接花毛鹿の園のはる乃夕とれ

光明峯寺入道 菟原道家公  
雲々集

甚く候り毛鹿の園とていふ所も空ふ毛鹿の園やとていふ

菟原頼氏 枕名寄

とていふ所も甚く候り毛鹿の園とていふ所も空ふ毛鹿の園やとていふ

菟原為氏 丈夫集

空の毛鹿の園とていふ所も空ふ毛鹿の園やとていふ

龜山院御製

とていふ所も甚く候り毛鹿の園とていふ所も空ふ毛鹿の園やとていふ

從二位宣子 新子載集

とていふ所も甚く候り毛鹿の園とていふ所も空ふ毛鹿の園やとていふ

藤原為方卿 文集

わがそむる園路の名のそまをそまをむかり武彦神の系  
藤原為世の續子載集

わがそむる園路の名のそまをそまをむかり武彦神の系  
よも人志の及新拾遺集

いづれに名をのそまをそまをむかり武彦神の系  
頓阿法師 弟庵集

東海や雲の載とるお飯乃山や雲の所園とよめをそまを  
道真准后 田圃雜記

阿波重海の雲の園と幸とそまをそまをむかり武彦神の系  
同

都中といそく我をのそまをそまをむかり武彦神の系

待乳山

名不極の待乳山大和下總二所と辯基法師の歌を  
は下總の載と類字に下總とと名寄に大和或は紀伊と  
辯基の歌を大和の載と松葉に下總或は紀伊と其  
歌を下總の載と歌林に下總の記に其基の歌と載せ  
又紀伊一説大和のそまをそまをむかり武彦神の系

按とるに下總の待乳山今武彦不系と説にあらむと

弟庵集の亦打山

八雲所抄の云はのら山大和又在東國駿河也又在紀

伊國を國山於美土山と云きり又まのら駿河也と云り  
て伊國の國山と云ふは伊國の國山なり

夫本集に云まのら山見打又駿河

藥師宗のまのら山山城又きの玉下総の國名あり或大和  
國國雜記に云當寺のち歸を淺草寺と云ふ云々其傳の  
乃と云々名ありの多うりな中まのら山と云ふは伊國  
萬葉代國記に云亦打山と云ふは伊國の國山なり  
津ふるゆき也けまのら山と云ふは八雲津抄に駿河と云ふは伊國  
駿河の國山と云ふは伊國の國山なり  
我  
我の國山と云ふは伊國の國山なり  
あるはまのら山と云ふは伊國の國山なり

と云ふは駿河と云ふは駿河と云ふは伊國の國山なり  
伊國の國山と云ふは伊國の國山なり  
ありぬと云ふは伊國の國山なり  
さしぬぬの信一か

勝地吐懷編に云八雲津抄に云此まのら山と駿河と云  
まのら山と云ふは伊國の國山なり  
と云ふは伊國の國山なり  
と云ふは伊國の國山なり  
駿河國に屬すと云ふ

伴蒿蹊云今下総角國川近く淺草の傳にまのら  
山と云ふは伊國の國山なり

抄りたる人者淺山のみことと云ふ所の里といふ  
所ありといふりこれと伊勢物語のうたよりと名づけ  
しぬるべし此類のうた多し好事の人乃西爲  
ある也

又云代田紀には此歌を注しとく下総と云ふ勢  
常前後遠なる也

按じると勢沖といふは雲流抄のけまらち山を駿河  
と注せしむるなりと訂正跡ありといふべし流抄の  
ほつち山大和とあるは是の本説より又本國を駿河  
と云ふ紀伊も在るは是の一説ありと云ふれはたつち  
これ駿河と注せしむるなりといふべし又流抄一本

中まらち河とありと駿河の字なりと云ふにゆ  
ゑに流抄の注にまらち河と載りしは  
まらち河とありと再の駿河と注せしむるなりと  
是のまらち河即ちまらち河と云ふなりと云ふ  
ことこの二河はあけのひらりと云ふことあり

江戸砂子と云侍乳山又真土山聖天山と云

再按江戸砂子と云ある人の曰侍乳山といふまも傳りし如  
板もは侍乳と云ふはこれ河内川の傳りより也なりす  
と河内武藏駿河大和とあり此訂正の事も駿河の  
と云ふ川なりするは侍乳山あり好事の者傳くこと  
名傳けるなりけし改訂して可なりと云ふことあり

へけきとはひ待乳山と尋る事も既く久く此書に記  
す所の俗の傳り地名とて記すてを得たりとてまづ  
山といふものと亦茂睡の碑とて百餘年と及びゆふま  
く是非とて一考すて於後人の評をまじ  
騷列名勝志とて每基の寺の亦お山を文字の上のま  
まといふ山と稱し後とてはのこをせおらまづ其  
山よりいひて後をせおらまづ

隅田川考よき真土山の隅田川のかたうかへく西の方あり  
此西は世よ山の宿といふも真土山ありといふれ名ある  
よや古くあるよや山のせくといひて用ひてはせおらまづ  
今ハよりうよきせおらまづそのうて聖天の宮居ありと

自持の山といふ處くもとて後世きをせおらまづ  
江戸名所記といふもの記するにむしこの山より金龍  
とほり出たるゆゑけふと金龍山といふりと聖天の  
此社あり大なる松山ありといふもまはら山といひて  
これ武蔵の國の名山なりといふ所のちりて東の  
方に淺草川といふ處新國とて西のちりて東ありと  
是の記す所の所ありその内ハ山の山とて國とい  
載りたるかゝ松といふ所の山といふ所の山といふ所の  
宮居ありといふといふといふといふといふといふといふ  
神ありといふも風流とてその山といふ所の山といふ所の  
合はるるその後遷すといふといふといふといふといふ

寛文の頃此事を尋うやう百五十年に於て  
その頃よりかく此の事々々数百年の事なり  
いふ事とてさかうおとるるはなから山の名  
初と兼集集といふとある世より名なる事  
なれと世國の事ある他の國も同名の事あれ  
先達の祝もさあ〜あり〜あるらこの國も治  
定〜の〜とこれと文明の頃より〜と  
いふ事古くよりいふ事あることなり

樓より大和とあつら山角古川あり〜  
紀伊より山の名と〜と川名あり〜  
とのにありと〜と強河あり八雲御抄より又東

國よりといひ藤原系にありとも同名ありといひ名  
系抄より各基の歌と〜と載せ類字にありと  
〜と松系歌林といふ各基の歌を〜と載せ  
ぬれと山國紀伊東岬といふ〜と山國紀伊東岬といひ  
田園雜記にも後集寺の〜と名取とも多かり事  
中にもありと〜とありとあれ文明の頃とて  
河系にありと〜とありと山武系あり〜とありと  
ゆゑに今定〜とありと都田川にありと  
系を流〜といひは懸度の〜とありと聖天山の  
系に砂利場と云地名の〜とありと田圃といふ  
ちりた頃とて〜とありと身徳の地とあり〜

より穰多村を元祖如の地を賜りて穰多寺を造りて  
て築きしといふされはのらに川筋のうたりしるの地  
形もそもなるべし

又按るに浄善寺縁起に土師真中知と捨前成  
竹成兄弟とありをこの社控現にまつるよしといひ志料  
の記より真直の仇とく尸ありといひ今穰多の  
縁起より真直の仇人の字成補し真直と作るされ  
とそ土師の姓ふ連宿祿の尸あれと直及び真人の尸  
ありハ杜撰なり又中知とありともといひとよむる世  
よりありかきとありて此のひよるともハ古縁起乃  
如く真中知とあり傳ふマツウチと假名成りせり

これに接ふ中つらハ所謂真中知を葬りて舊址  
より其名をのりて山の稱とてまつらるる  
いふなりん今も聖天の別當本龍院ハ穰多寺の子  
院なるのかとくゆゑありのやうと考ふべし

辨基法師 弟集

まほら山夕越りていふ所の角古河原に穰多を祀ん  
て人々を以て

阿のいふまじりてくまつらるる山にゆらんを面ありき  
持僧正永縁 文本集

君の代をまつらるる山の小松をまつらるるまじりて  
知海法師

まひらひはちのけんやきつひん角回河ふたふもつり  
郁芳門院安藝

こけのふかきやうきつひん角回河ふたふもつり  
藤原家隆々 古今集

月ふれさかきやうきつひん角回河ふたふもつり

同 支本集

志らふはちのけんやきつひん角回河ふたふもつり

敦系 定家公 新古今集

誰ももふらうきつひん角回河ふたふもつり

敦系 孝子廣 支本集

海原ら山夕織ひ八風きつひん角回河ふたふもつり

清人 志ら

夕されハ若狭まのらけりつひん角回河ふたふもつり

道真准后 田國雜記

心ひらけふらあめちのあめまのらけりつひん角回河ふたふもつり

同

志られてもはあめちのあめまのらけりつひん角回河ふたふもつり

右豊島郡

17



